

卒業論文の要旨

論文題目	インフォグラフィックスの役割と可能性
氏名	川南涼音
メジャー	情報科学
<p>(要旨)</p> <p>本研究は、インフォグラフィックスがどれほど我々にとって必要なものなのか、現在どのように活用されているのかを調査し、これからどのように社会に役立っていくのかを論じている。それに伴い、インフォグラフィックスの歴史や成り立ちから、既存のインフォグラフィックスについての評価、今後の可能性について考察した。</p> <p>具体的には、インフォグラフィックスの種類や概要を述べ、既存のインフォグラフィックスを評価・調査するためにアンケート調査を行った。その調査では、標識や日常生活で頻繁に目にするピクトグラムを調査対象とし、情報伝達の正確性、インフォグラフィックスでの「色」の重要性を明らかにした。</p> <p>また、インフォグラフィックスにおけるジェンダー問題にも触れ、インフォグラフィックスの「誰にでもわかりやすくあるべき」という本来の在り方を再確認した。</p> <p>既存のインフォグラフィックスの特長を、文献やアンケート調査で明確にした後に、その特長を利用した今後の可能性を、文献を参考にしながら考察した。情報を可視化することで、よりイメージさせやすくすることができるインフォグラフィックスは、可視化できない情報でさえも工夫次第で視覚的に情報を伝えられるということが明確となった。</p> <p>結論としては、本研究を通して既存のインフォグラフィックスの特長や課題、認知度を知ることができた。また、アンケート調査やジェンダーの問題に触れることで、インフォグラフィックス本来の役割を再確認した。今後の可能性では、その特長を様々な分野で活かせるということも分かった。現代の社会では、様々な立場の人に配慮するということが常に考えられているが、その考えとインフォグラフィックスがお互いに良い影響を与え合うことに期待し、今後もインフォグラフィックスの発展に注目したいとしている。</p>	
<p>(指導教員の推薦のコメント)</p> <p>本卒業研究は、近年注目の度合いが高まっているインフォグラフィックスに着目し、その起源、歴史、普及過程について文献調査を行った後、独自のアンケート調査を実施して、その社会的な役割や将来展望について論じたものである。手際よくコンパクトにまとめられており、読む側にとって理解しやすい内容となっている点が優れた点といえるため、優秀卒業研究として推薦する。</p>	